



学校法人
浪速学院
<http://www.naniwa.ed.jp/>

浪速高等学校
浪速中学校

本校の歴史その25:「戦時下の浪速中学校」

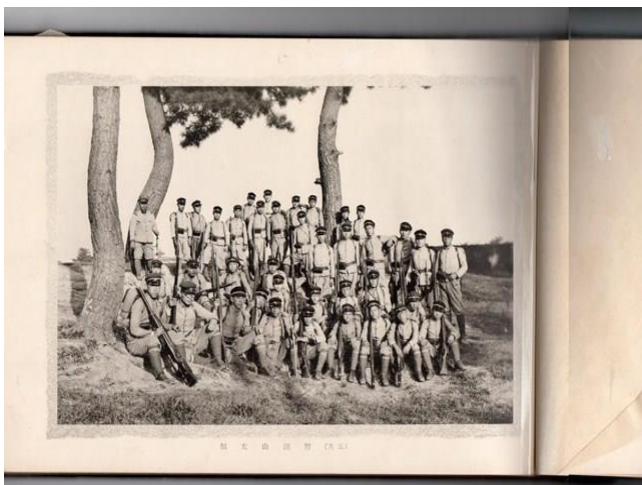
No.35 木村理事長・学院長 平成25年度公式メッセージ
(平成25年5月12日アップ)



昭和17年卒業記念集から
銃剣担いで野外演習

野外演習昭和17年

本校の歴史その25 「戦時下の浪速中学校」



軍事教練の時代



昭和20年8月20日 本校と終戦の詔勅

終戦の詔勅



相撲大会



浪速中学校勤労奉仕

- ・ 第二次世界大戦の終戦が昭和20年8月、その前年の昭和19年4月30日に第5代松岡万次郎校長が就任された。足かけ2年に及ぶ軍人校長事務取扱の三宅篤夫陸軍少将の時代は終わったのである。
- ・ 昭和19年は敗色濃い時代であったのだろう。生徒の工場動員が頻繁となり、3月31日には大阪大空襲があった。運の良いことに本校は爆撃から逃れることが出来た。市内南部だったからに違いない。当時の浪速中学校の生徒はこのような戦時下、一体どのような学校生活を送っていたのだろうか。今日の歴史を振り返るはこの点がポイントである。
- ・ 昭和9年の第4代岡阪校長のご就任、そして校長の死去、その後の三宅校長事務取扱が退任するまでの10年間は徐々に戦争一色に染まっていく時代であった。同時に学校の骨格が定まっていた時期でもあると私は歴史その24で書いた。
- ・ 昭和18年5月1日に創立20周年の開校記念日を迎えており、戦時下でもあり「質素に」と三宅校長の指示の元、10月1日に祝賀会を催している。この会には大正12年の設立時の校長事務取扱の任にあった大島鎮治氏(大阪府教育主事)も出席されたとある。
- ・ 人間で言えば成人式である学校の20年祝賀会は設立時の関係者、そして20年目の学校に勤務していた人々にとって感無量なものになったに違いない。これは想像に難くない。本校には創立以来の10年ごとの周年史が完全には揃っていない。又卒業アルバムも揃っていない。
- ・ 学校として甚だ残念なことであり、恥ずかしいことである。私は戦雲急なる昭和16年、17年、18年、19年の卒業アルバムを探したが結局18年の分は無かった。敗戦前後のどさくさで失ったのだろう。
- ・ そういう状況の中であったがただ一冊残っている60年史は中身のある素晴らしいものになっていると私は評価している。これは還暦を迎えた本校の教職員が力を入れて編集したものと想像できるくらい「読み物」として手ごたえがあるものだ。それは多くの関係者が一文を寄せているからである。「実録」なのである。大変に貴重なものであり紛失してはいけないので今は私が直接管理している。
- ・ ちなみにこれを書いている本日は平成25年2月26日であるが丁度今「90年史」を教員チームが編纂してくれている最中である。私は多くの「ダメだし」をして極力多くの人々に何らかの一文を寄せて欲しいとチーム長を督促した。

- ・そして中身は「実録」でなければならないとこれだけは強く指導している。通り一片の事を書いても後世の人々にその時代の「息吹」を感じては貰えないからである。とにかく「読み物」としての周年史を目標に現在90年史を纏めている最中である。
- ・90年史をしっかりと纏める事で「100年史」の編纂は極めて楽なものになるからだ。100年史は間違なく「新校舎」に関する事で中身は充実するだろう。故に私は本校の90年史の軸は「浪速改革:黄金の80年代」として「何がなされたか」を後世に記録しておかねばならないと強く思っているからである。
- ・戦争前、戦時下の10年ではあったが学校は泰然として生き続けてきた。しかし戦時色は濃くなり軍事教練と学徒動員の時代でもあった。昭和19年にはほとんど授業はなされず工場での動員がなされていたと60年史にはある。
- ・しかし昭和16年の卒業記念帳には登山部、グライダー部、會報部、柔道部、喇叭部(ラッパ部)、剣道部、競技部、詩吟部、研究部、作業部、相撲部、射撃部、体操部、独逸語部(ドイツ語部)、弓道部、野球部、水泳部、弁論部、の部活動が記載されている。
- ・戦争中ではあったが浪速中学には今と変わらぬクラブが多く存在しそれぞれに顧問の先生が付き晴れやかな顔をした生徒の写っている卒業記念帳を見ると学校の塀の中はそれでも平穩無事であった様子が見てとれるのである。このことが嬉しい。
- ・昭和17年には卓球部の記事があった。しかし昭和19年にはスキー班、地歴班、機甲班、馬事班、科学班、戦場運動班グライダー一部が滑空班に、剣道部が銃剣道部に名称変更され部から班に変わっていた。
- ・恐らく何々部という愛好的な物から強制的な「班」として分けられていったのではないかと私は想像する。スキー部は同じスキー部だったが、グライダー一部が滑空班とか銃剣道班とか、戦場運動班とか終戦の前年でもあり完全に学校も軍事一色に染まって行った感じがするではないか。
- ・60年史にある昭和24年卒の市本賀一氏は昭和18年に入学した。大東亜戦争も3年目に入りこの年山本五十六連合艦隊司令長官が戦死したとの報があったが中学1年生だった氏はまだ通常の授業がなされていたと書いてある。食糧増産の為浅香山農園や出征兵士の留守農家で勤労稲刈り奉仕や軍需工場でも勤労奉仕が増え始めた時とある。
- ・中学2年生の昭和19年になると勤労奉仕に出かける回数が増え、防火用の貯水地や防空壕作り、市内の建物疎開の解体など学校に居るよりも校外に出かけることが多くなったとある。一賀氏は軍需工場で朝鮮からの徴用工と共に働いたとある。
- ・敗戦は軍需工場で知り、その夜は空襲も無く電気を明々とする事ができ、何かホッとした気持ちになったとある。敗戦を迎えたと言っても学校は夏休みだから登校することもなく2学期まで何もすることがなく過ごした。そして9月に登校すると先生も生徒も精神的にも肉体的にも一種の虚脱状態で勉強には熱も入らなかったと書いてある。
- ・講堂や教室には陸軍の物資が保管されており、運動場は先生方の畑となり、一生懸命農作業をされていた姿が浮かんでくる。学校では占領軍の命令により、剣道柔道は禁止された。